

健診症例における M2BPGi の有用性の検討

◎青木 健人¹⁾、木本 梓¹⁾、林 豊¹⁾、笠井 久豊¹⁾、山本 幸治¹⁾
 社会福祉法人 恩賜財団 済生会 松阪総合病院¹⁾

【背景】Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi) は、肝病態の進行により変化する糖鎖構造を捉えたものであり、肝線維化の進展度や治療効果の評価するマーカーとして注目されている。今回、我々は健診症例における M2BPGi の有用性について検討を行い、若干の知見を得たので報告する。

【対象と方法】対象は、2018年4月2日～2019年3月28日まで当院健診センターにて血清 M2BPGi を検査した 319 名 (男:女=231:88、平均年齢:58.0 歳)である。これらの 319 名の受診者に対し検討を行った。測定機種は、sysmex 社の「HISCL-5000」を使用した。検討①: 当院健診受診者の年齢ごとの M2BPGi 値の平均値および異常値症例の比率を比較した。検討②: M2BPGi 値と他の肝線維化マーカーである FIB-4index、shear wave elastography (SWE) との相関関係を検討した。検討③: M2BPGi 値 1.00 COI 以上を異常値症例とし、超音波所見上慢性肝障害と判断した症例との一致率について検討した。検討④: 超音波所見上、正常、脂肪肝、慢性肝障害と判断した症例の M2BPGi 値との相関関係を検討した。

【結果】全症例の測定結果は以下の通りである。M2BPGi の平均値は、0.59 COI で測定範囲は 0.14-3.58COI であった。FIB-4index は、1.39 (0.29-11.80)、SWE は、1.30m/s (1.03-2.03) であった。検討①: 年齢ごとの M2BPGi 値の平均は 49 歳未満が 0.50COI、50 歳代が 0.55 COI、60 歳代が 0.58 COI、70 歳以上が 0.81 COI であった。また、年齢ごとの M2BPGi 異常値症例の比率は、49 歳未満が 6.5%、50 歳代が 5.0%、60 歳代が 7.4%、70 歳以上が 16.7%であった。検討②: M2BPGi 値と

SWE 値では、相関係数 $r=0.745$ と相関関係を認めた。しかし、M2BPGi 値と FIB-4 index では、相関係数 $r=0.192$ と相関関係が認められなかった。検討③: M2BPGi 異常値で慢性肝障害を認めた症例は 7 名、M2BPGi 正常で慢性肝障害を認めた症例は 7 名、M2BPGi 異常値で慢性肝障害を認めなかった症例は 18 名、M2BPGi 正常で慢性肝障害を認めなかった症例は 287 名であった。以上より、感度は 50.0%、特異度は 94.1%、診断一致率は 92.5%であった。検討④: 超音波所見で正常、脂肪肝、慢性肝障害による M2BPGi 値との比較では、正常と慢性肝障害、脂肪肝と慢性肝障害で有意差を認めいずれも後者で高値を示した。

【考察】M2BPGi は、加齢とともに暫時上昇し、同様に異常値症例の頻度も増加した。また本測定値は SWE 値と高い相関関係を認めたことより、肝線維化を鋭敏に捉えているのではないかと考えられた。一方、超音波所見との対比において、診断一致率が 92.5%と高率であった。特に慢性肝障害の本測定値が正常や脂肪肝と比較し、有意に上昇を認めたことにより、肝線維化診断のスクリーニング検査として M2BPGi は有用であると考えられた。

【結語】健診症例における M2BPGi 測定は、慢性肝疾患のスクリーニング検査として有用であると考えられた。

連絡先: 0598-51-2626 (内線 268)